

写仏教室生37人が出品

菩薩、不動明王など46点



今年は37人が46点の力作を出展した写仏教室
作品展ニ宇土金の上原仏教美術館で

上原仏教美術館で作品展

下田市宇土金の上原仏教美術館で二年を通して行われている写仏教室の受講者作品展が九月末まで展示ロビーで開かれている。

今年二十四回を数える歴史ある教室で、参加者には十年以上通い続けている熱心な人、居住地域は地元の下田・興茂地区だけでなく、伊東市や富士市、東京都立川市から参加している人もいる。教室は月一回第四金曜日で、午前と午後の教室があり、午前は千葉県の実政道場へ、午後は東京の山田正枝さんが講師を務め、今回は三十七人が四十六点を出展した。

写仏は主に山梨県在住の仏画家・安達原玄さんの手本を使い、まず手本の線をチャコペーパーという転写紙で色紙や和紙に写し取り、日本画用の刷毛の端で輪色していく手法。出展の手本はそれぞれ経験やレベルによって講師が決めたり、相談し合い選んでいるとい

い、一年がかりで完成させた力作もある。法華経の巻々と文作の守護仏から像に刻った胎賢菩薩が八点、最も多いのが観音菩薩の十四点。激しい怒りの姿で舞やさまさまな障屏、芭蕉、心の中の煩悩をも滅ぼすといふ不動明王も九点。そのほか虚空蔵菩薩、鬼子母神、孔雀明王、如意輪観音菩薩、聖観世音菩薩などが見られる。

全体の構図は手本の趣

がベースとなるため類れることはないが、細かい髪の手や衣飾具の線、背景の色合いなどに苦勞するところで、作品につけられたコマンドからも途中で抜け出したくなった。なお、制作時の苦勞の跡が感じられる。同館の隣館は午前九時から午後五時(入館は四時半まで)。写仏作品も一般の入場料無料。